

## 令和3年度事後評価対象課題 総合評価（座長取りまとめ案）

	課題名	実施期間	研究代表者 (所属)	PO (所属)	研究費(千円)	総合 評価	研究評価委員会 総合コメント
1	内部被ばく線量評価コードの開発に関する研究	平成29年度 ～令和2年度	高橋 史明 (日本原子力研究開発機構)	古田 定昭 (古田技術士事務所)	62,265 (1年目:14,054 2年目:19,546 3年目:19,823 4年目:8,842)	A	公表データとの整合性の確認、操作マニュアルの作成、及び専門家からの意見の反映を経て、ICRP2007年勧告に基づく内部被ばく線量評価を可能とするコードが完成したことは高く評価できる。原子力機構での維持管理及び医療その他の分野での利用拡大への対応を期待する。
2	原子力災害拠点病院のモデルBCP及び外部評価等に関する調査及び開発	平成30年度 ～令和2年度	永田 高志 (九州大学)	石川 徹夫 (福島県立医科大学)	27,732 (1年目:10,609 2年目:10,523 3年目:6,600)	B	モデルBCPの策定を目指す中、コロナ禍のためワークショップ開催が制限されたことをオンライン形式でカバーし、その結果マネージメント層を含む参加者に問題意識や改善点への気づきをもたらしたことを評価する。今後、研修内容のブラッシュアップと拠点病院とのさらなる連携強化が望まれる。
3	包括的被ばく医療の体制構築に関する調査研究	平成30年度 ～令和2年度	富永 隆子 (量子科学技術研究開発機構)	本間 俊充 (原子力規制庁)	48,111 (1年目:16,233 2年目:20,827 3年目:11,051)	B	CBRNE テロ災害に関連する教材の改訂、初動対応マニュアルの作成が行われ、それらに基づくオンライン研修が実施されたことは評価するが、ウェブ公開による資料提供のみとなっており、意見反映がなされていない。今後、改訂を行う体制の整備が望まれる。

	課題名	実施期間	研究代表者 (所属)	PO (所属)	研究費(千円)	総合 評価	研究評価委員会 総合コメント
4	短寿命アルファ線 放出核種等の合理的 安全規制のための ガイドライン等の 作成	令和元年度 ～令和2年度	吉村 崇 (大阪大学)	令和元年度: 中村 吉秀 (日本アイソトープ協会)  令和2年度: 古田 定昭 (古田技術士事務所)	10,408  (1年目:6,809 2年目:3,599)	B	関連学協会からのコメントを反映させ、短寿命α線放出核種等の合理的安全規制のためのガイドライン及び安全取扱いのための教育資料を作成したことで目標は達成できたと判断する。今後、改訂に向けた議論を行う持続的な体制の整備が望まれる。
5	加速器施設の廃止 措置に関わる測定、 評価手法の確立	令和元年度 ～令和2年度	松村 宏 (高エネルギー加速器 研究機構)	中村 尚司 (原子力規制庁)	46,483  (1年目:27,940 2年目:18,543)	B	コロナ禍の影響で実態調査が制約されたが、加速器の種類に応じた施設廃止措置のためのマニュアルが作成されたことで、目標は一応達成したと判断する。しかしながら、クリアランス制度に関する議論が不十分のままであり、今後、関連学協会と協力して検討されることを期待する。
6	発災直後の面的な 放射線モニタリング 体制のための技術 的研究	令和元年度 ～令和2年度	谷垣 実 (京都大学)	古田 定昭 (古田技術士事務所)	18,978  (1年目:9,392 2年目:9,586)	A	モニタリングポストの小型化と自律型ネットワークの構築によって二次元放射能分布情報の取得が可能であることを示したことは高く評価できる。システム全体の健全性・頑強性の確認と実装化の検討(実証実験含む)が継続されることが望まれる。

\* 評価基準： A: 非常に有用な成果が得られた、B: 有用な成果が得られた、C: 限定的ではあるが有用な成果が得られた、  
D: 有用な成果が得られなかった